

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	13-079	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>Trends in socioeconomic inequalities in adolescent alcohol use in Germany between 1994 and 2006.</p> <p>ドイツにおける青年期の飲酒による社会経済的地位の格差の 1994 年から 2006 年までの傾向</p>		
執筆者		
Richter M, Kuntsche E, de Looze M, Pfortner TK.		
掲載誌		
Int J Public Health. 2013 Oct;58(5):777-84. doi: 10.1007/s00038-013-0486-x.		
キーワード		PMID
青年期、飲酒、社会経済的地位、傾向、HBSC 研究、ドイツ		23835868
要 旨		
<p>目的： ドイツにおける青年期の飲酒と社会経済的格差との関連を調査し、その関連の変化を 1994 年から 2006 年まで検討することを目的とした。</p> <p>方法： ドイツ、North Rhine-Westphalia で 1994 年、1998 年、2002 年、2006 年に実施された“Health Behaviour in School-aged Children”研究からデータを得た。対象は 15 歳の 5,074 人の学生とした。Log-bi-nominal 回帰モデルを用いて、家庭収入、教育水準と飲酒率との関連を検討し、その関連の変化について 1994 年から 2006 年まで検討した。</p> <p>結果： 一週間の飲酒率は、1994 年から 2002 年にかけて増加していたが、2002 年から 2006 年にかけては減少傾向にあった。家庭収入のみ飲酒率と弱い関連があり、収入の低い家庭の学生は飲酒率が低い傾向にあった。教育水準は飲酒と関連を認めなかった。これら家庭収入・教育水準と飲酒との関連を 1994 年から 2006 年まで検討したが、有意な変化を認めなかった。</p> <p>結論： 15 歳の青年期においては、飲酒習慣と社会経済的格差との関連は、まだ確立されていない。よって、飲酒習慣と社会経済的格差との関連が固定される後の人生にとって、青年期は重要な期間となりうる。</p>		